

抗生剤の院外処方状況に及ぼす薬剤耐性対策アクションプランの影響

河田 直也¹⁾、片山 珠季²⁾、前田 守³⁾、長谷川 佳孝³⁾、月岡 良太³⁾、
森澤 あずさ³⁾、大石 美也³⁾

- 1) 株式会社インファーマシーズ アイン薬局 あべのハルカス店
- 2) 株式会社インファーマシーズ
- 3) 株式会社アインホールディングス

【目的】抗生剤の耐性菌が課題となる中、適切な薬剤を適時適量、適正期間だけ使用することを徹底する「薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプラン」が 2016 年 4 月に発表された。そこで本研究では、抗生剤の乱用防止に向けて薬局薬剤師の果たすべき役割を模索するために、まずはアクションプラン発表前後の院外処方状況を調査した。

【方法】2015 年 4 月～2018 年 10 月の期間中に当社薬局 258 店舗が応需した処方箋 21,864,019 枚を対象に、外用薬を除く抗生剤 (注射剤を含む) が記載された処方箋枚数を集計した。プラン前群 (2015 年 4 月～2016 年 3 月)、プラン 1 年目群 (2016 年 4 月～2017 年 3 月)、プラン 2 年目群 (2017 年 4 月～2018 年 3 月)、プラン 3 年目群 (2018 年 4 月～2018 年 10 月) に 4 分類し、月平均処方枚数を算出した。結果は、有意水準を 0.05 とした一元配置分散分析と Holm 法による多重比較にて統計解析した。

【結果】月平均処方枚数は、プラン前群が $518,834 \pm 21,986$ 枚/月、プラン 1 年目群が $508,348 \pm 14,947$ 枚/月、プラン 2 年目群が $504,269 \pm 12,938$ 枚/月、プラン 3 年目群が $498,088 \pm 22,192$ 枚/月であり、各群間に有意差は見られなかった。抗生剤を含む処方箋の月平均枚数は、プラン前群が $47,781 \pm 2,531$ 枚/月、プラン 1 年目群が $44,973 \pm 2,867$ 枚/月、プラン 2 年目群が $42,293 \pm 2,165$ 枚/月、プラン 3 年目群が $39,874 \pm 2,717$ 枚/月であり、プラン前群に対してプラン 2 年目群とプラン 3 年目群が、プラン 1 年目群に対してプラン 3 年目群が有意に低かった。

【考察】アクションプラン発表前後で全処方箋枚数に変化はなく、抗生剤を含む処方箋は経時的に減少する傾向が見られたことから、アクションプランの発表をきっかけに医療関係者が AMR 対策に取り組んだ結果、抗生剤の適正使用が推進された可能性が示された。今後、さらなる適正使用の推進に向けて、薬局薬剤師は今まで以上に服薬指導においてコンプライアンス維持や飲みきり徹底に努めるとともに、医師への処方提言などを通じて AMR 対策に貢献する必要がある。

(第 29 回医療薬学会年会 (2019 年 11 月, 福岡) にて発表, 一部要約)